



No. 177

ティークレイク

Tea Break

四季のプロムナード遊歩行 春季編

会員 工藤 莞司

新宿から代々木へ歩き河津桜を探す

新聞情報で、河津桜が代々木公園に咲いたと知った。桜と言えば、染井吉野だが、私は河津が好きだ。桜木を覆い重なる濃いピンクの花の群は妖艶ささえ感じる。

新宿御苑外周を歩く 代々木公園だけでは里歩きには足りない。折良く、乱雑な机上から、小田急「自然ふれあい歩道新宿～南新宿駅コース」が出て来た。都営新宿線新宿三丁目駅を出て、太宗寺を探す。寺の名前から再訪かなと訝りながら境内へ入り見渡すと、六地藏があり、やはり来ていた(05.6.13)。軽く参詣後、御苑へ近付き堀沿いに行く。

鉛筆の碑は真崎鉛筆 御苑大木戸門前から、四谷大木戸門跡碑、玉川上水水番所跡碑を眺め、大交差点で右へ渡り、住宅街へ。マップでは、鉛筆の碑がある筈。先に見えた社は多武峯内藤神社で、寄って詣でる。新宿にお屋敷があった高遠藩内藤家に由来するらしい。狭い境内にある小さな石碑が鉛筆の碑であった。三菱鉛筆の元祖真崎鉛筆を記念したもので、1887(明治20)年当地創業とある。約30年前、私が担当した制度史編纂の際、調べて書いたことがあり(「工業所有権制度百年史・上巻」358頁)、真崎鉛筆は知っていた。新宿御苑外側を大回りし、大京町から千駄ヶ谷駅前、そして北参道交差点を直進し、明治神宮内へ。この時期の都心の森は、緑色が混じるが微妙な色合い。原宿駅口へ出て、代々木公園へ急ぐ。

公園奥に咲く河津桜 代々木公園は広い。河津桜を探し、奥へ奥へと進むが花は見当たらない。中々到達できず、ほんの1、2本の桜が針小棒大に報道されたのではと疑念が生じ始めた頃、右先からピンク色が飛び込んで来た。あったと、ピンク先を目指した。



河津桜は咲き、満開状態。それが4、5本固まり、桜を囲んで、若者やご婦人達が眺め、また携帯を翳している。私も、ようやく出会えた思いで、桜木に近付き、眺め、ベストアングルを探した。木々は太くはなく、10年位か。中でも、一番咲き振りが良い木のベストポジションを見付けて、シャッターを切った。友人達へもと携帯にも収めた。広い公園を出て、小田急代々木八幡駅へ向かった。(2017/2/27 歩く)

都電三ノ輪橋駅を往復し沿線を巡る

都電に乗った際入手した“小さな電車でおさんぽ日和”を眺めて、下りの終点三ノ輪橋駅を訪ねようと思った。未訪の地で、三ノ輪橋の地名は知っていたが、通ったこともない。都電乗車も大分手前の熊野駅迄である。



三ノ輪橋駅と商店街 三田線巢鴨駅から歩き都電庚申

塚駅へ向かった。途中巢鴨の地藏通り、通称お婆さんの原宿で、本日も高齢者中心に人出中。私は旧中山道でもある通りを直進し、庚申塚に詣でて、三ノ輪橋駅行き都電へ乗った。結構込み合中、車窓から訪ねる先々のポイントを確認しようと眺めていると終点三ノ輪橋駅であった。1時間は掛からず思ったより早い到着。駅舎はなく、停車場風である。

駅前には、下町商店街でも有名なジョイフル三ノ輪商店街。昔ながらの個人商店が両側に並び、食料品店が多い。中にはシャッターを閉めた儘の店もある。アーケードの下を、店内を覗きながら500m足らずを往復し、みたらし団子を求めた。一旦大通り日光街道へ出て駅へ戻ると、宗家屋敷跡の案内に出会う。対馬藩主の下屋敷跡とあるが江戸時代は江戸の内であったのだろうか。

尾久八幡に参拝 三ノ輪橋駅から再び都電に乗り、荒川二丁目駅に下車し駅前の荒川自然公園でスカイツリーを正面に眺めた。近くには赤煉瓦の建物が遺り、わが国初期の下水処理場であったという。熊野駅に降りて歩いた先に、昭和17年東京最初の空襲被害地跡の案内があった。尾久八幡を探して歩き、見付かり八幡宮に参拝すると目の前が都電の宮ノ前駅。直ぐ早稲田行き電車が来た。(2016/3/11 歩く)

今年のソメイヨシノは江戸川新川千本桜へ

遅れていた桜ソメイヨシノもようやく見頃を迎えた。江戸川区の新川千本桜を思い出し、ネットでチェックすると新川は、都営新宿線船堀駅から近い。

小雨の新川千本桜 船堀駅に降り、新川へ向け歩き出す。雨は小降りだが降り続け、傘を指した。直ぐ正面が広い川で、両側に桜並木があり、満開の花が続いている。花見客はなく、小雨の中我々だけで、ゆっくりと川沿いに行く。桜木は未だ細く、約10年前地元で植樹したらしい。

江戸川と荒川を繋ぐ運河が新川で、江戸時代に開削され行徳から塩などが江戸へ運ばれたという。いかにも運河らしく、川幅は同じで、流れはない。花は見頃で、咲き開いているが、未だ一枚の花びらも落ち始めてはいない。時々立ち止まり見上げ、カメラを出しシャッターを切る。架かる橋を過ぎると、反対側からぼつぼつと見物客が来るようになった。

さくら館で休憩 3本目の橋桜橋の袂に、江戸川区新川さくら館があり、寄ってみる。江戸風の建物を模した施設。イベント準備中の集会室があり、展示物から落語



会か。寄席や相撲で使う独特の文字で書いたポスターが展示されている。隣の茶所で休憩した。

また新川へ出て、千本桜は更に大河江戸川へ向け先に続くが、我々は桜橋を渡り対岸へ。橋から見下ろすと、運河の両側に桜並木が揃い、中々の風景。桜を楽しみながら新川沿いを歩き、船堀駅へ戻った。(2017/4/9 歩く)

練馬白子川にカタクリの花を訪ねる

カタクリの花情報を思い出した。先日、練馬清水山の森に花が咲いたとの新聞記事(毎日新聞 17.4.3)を切り抜いておいた。白子川沿いのよう。同川は板橋区の外れを流れ我が家から近い。

白子川源流から 西武線大泉学園駅から白子川源流へと歩き出す。都内の市街地歩きはスムーズにはいかず、尋ねながら右往左折し、源流のある大泉井頭公園に着く。再会の丸葉柳の古木に挨拶し、川沿いに下る。直ぐ密集住宅街の間の水路となり、これまで歩いた神田川や石神井川と似たような風景。西武池袋線下は通れず大回りし、また白子川へ戻り下り続ける。処が河川工事中でまた迂回すると、川は消えてしまった。暫し地図と道路等から位置、方向を検討。目白通りの突き当たりで北園の交差点と判断。



目白通りから再び白子川へ 目白通り側道を行くと、想定通りで、高速練馬IC下で白子川を取り戻した。また住宅街の間の水路となり小さな橋の袂で、もうすぐと教えられ急ぐ。そして、林と白いテントが見え、目指す清水山の森であった。案内の方はパンフを手渡してくれ

ながら、“もうお終いです。”と連れない返事。

カタクリと清水山の森 遅かったかと思いながらも、林内の土手を巡る。カタクリの花を本格的に観るのは初めて。花はあるが萎んでいる様子。鑑賞者は多く、狭い遊歩道を巡っている。土手を上がるに従い花は残り、まずまずといった処。

清水山の森は、白子川の土手の一画で、櫟や檜の木が繁る。地元の先駆者が自生のカタクリを守り、現在では

区が整備し管理しているとある。結構広い林、土手で、その中の斜面に多くのカタクリが花開いている。10万株と新聞記事にあった。湧水もあり、都の名水に選ばれているらしい。木々も浅緑の葉を出し始め、春を実感する。

林を出て坂を上がるとバス停。着くと同時にバスが来て成増へ出た。 (2017/4/13 歩く)